

2007年5月15日

2002FIFA ワールドカップ™記念 日本サッカーミュージアム  
第10回「アドバイザリーボード」の概要報告

2002FIFA ワールドカップ™記念 日本サッカーミュージアムのアドバイザリーボードは、2007年5月9日(水)の14時30分より16時30分まで、JFAハウス8階会議室において、第10回目の会合を開催した。

**アドバイザリーボード委員 出席者**

遠藤安彦、大住良之、木村剛、二宮清純、日比野克彦、真野響子、  
高橋功次(平野哲行代理)

**日本サッカーミュージアム**

岡野俊一郎(館長)  
小野沢洋(JFAミュージアム部部长)、津内香(JFAミュージアム部)

**アドバイザリーボード委員 欠席者**

石井幹子、木元教子、民秋史也

**館長挨拶**

出席者に対してのお礼と、サッカーのみならず幅広い知識と経験をお持ちの委員の皆様より活発なアドバイスをいただきたいとの言葉があり、座長である木村剛氏に進行をお任せする旨の挨拶があった。

併せて、木元教子委員の叙勲の報告とお祝いの言葉あった。

事務局より、資料1にもとづき、入場者数、特別来客、運営、展示、イベント関連、パブリシティなどについて報告を行った。主な点は以下の通りである(その他は資料参照)。

- ・ 今年度に入ってから入場者数は、昨年に比べると少し低調。
- ・ 修学旅行や校外学習ではリピート校が多く順調に入場者数を伸ばしている。
- ・ 特別来客としては、南アフリカ共和国の関係者が、ワールドカップ開催の参考として3ヶ月に1度程度の割合で訪れている。4月24日には南アフリカ共和国厚生省一行が来館。
- ・ 4月5日に、さいたま市技監兼都市局長と新都市まちづくり室一行が、さいたま市のサッカーミュージアム建設の参考のため来館。
- ・ 運営面に関しては、開館から3年半が経過し、機器の経年劣化による不具合が多発している。4月中旬には、自動券売機が不調となり内部PCの調整作業を行った。

- ・ 展示については、東京オリンピック当時のユニフォームを元日本代表選手鈴木良三氏よりご寄贈いただき、展示した。また、前回寄贈の報告を行ったベルリンオリンピックユニフォーム、東京帝国大学のセーター、竹腰重丸氏の書簡も3月26日より展示。
- ・ 鈴木氏から寄贈された東京オリンピックのユニフォームは青であるが、実際に試合に着用されたものは白であった（対戦相手との色の兼ね合いから白のみの使用であった）ため、引き続き白を探している。
- ・ ヴァーチャルスタジアムにて、2月27日に、ぴあ主催「ぴあトークバトル」～どうなる！？2007年Jリーグ～を開催。4月1日には、「コナミ ウイニングイレブン全国決勝大会」を実施。
- ・ 4月9日には、「2007 AFC フットサル選手権組み合わせ抽選会・記者会見」を実施した。
- ・ 文京区のミュージアムネットワーク「文の京ミュージズネット」による「文の京ミュージズフェスタ」（11月開催予定）に参加を予定している。
- ・ 今後は、夏休み企画として「キャプテン翼展」、こころのプロジェクト主催の授業実施を予定している。

事務局からの報告を受け、企画・運営について、以下のような質問と意見をいただいた。

（「 」部分は事務局よる回答）

- ・ 入場者数を伸ばすためには、目玉となる企画を打つべきである。  
春休みやゴールデンウィークなどの休みの日は、安定的に集客を得ることができるようになった。認知度が高まってきているものと思われる。確かに、イベントが代表チームの試合があればなお集客に結びつくものと思われる。
- ・ 入場者のうち、リピーターはどの程度か？  
修学旅行や職場体験など学校関係のリピーター率は非常に高く、100%に近い。また、有料ゾーン以外（ヴァーチャルスタジアムやショップ）へのリピーターも多い。
- ・ ミュージアムは、過去の財産を語り継ぐ場である。過去のものを未来へ、そして若者に伝えられるよう、歴史的な事物をもっと活かせる仕組みを考えるべきである。
- ・ 地域のシニアやサッカー好き、あるいはリタイアした選手をボランティアの館内ガイドとして活動してもらってはどうか。ボランティアには、「こころの財産」を得てもらえるような特権を付与する。
- ・ アヤックスのスタジアムツアーのガイドは非常に知識が豊富で、ただ見てまわるよりも見学の質が高まった。展示物や施設の価値を高めるためにも、訓練されたガイドを置いてはどうか。
- ・ 物語性を付与し、展示物や展示内容の価値を高めれば、見学での面白さが数段違っ

たものになる。プラスアルファの内容が見学者にとってはプレミアとなる。

例えば、東京オリンピックのユニフォームを見つけるのに時間がかかった(この話を知っているだけで、その価値が高まる) 実際の試合では白を着用しかし、白は見つかっていない。そのため、白は青よりもより価値が高い。メキシコオリンピックのフェアプレー賞などはもっと重要性を持って語り継がれるべきである。展示内容にプラスして、選手の具体的なプレーや態度を人の言葉で伝えていくべき。

- ・ 見学者のニーズを考え、見学のコースを時間や興味によっていくつか設定してはどうか。
- ・ 海外のミュージアムとの交流(情報交換、サッカーミュージアムサミットなど)を行ってはどうか。特に、日本サッカーミュージアムのような協会主導で設置・運営されている形態は世界でも珍しく、その点もアピールしていける。
- ・ 2010年のワールドカップに向け、在日南ア人を呼んで南アについての話を聞くような、比較的小金のかからない手軽なイベントから始めればよい。
- ・ サッカーを通して地理や歴史を知ることができることから、アカデミックな要素を取り入れ、サッカーと教育をリンクさせてみてはどうか。
- ・ 地域の人が気軽に、毎日立ち寄れるようなカフェ機能を持った場にしてはどうか。
- ・ 「サッカー学検定」やテキスト販売、ジャーナリストの持ち回り記事やそれらの出版など楽しく学べるものがあってもよい。また、ミュージアムに行くと答えが分かるような仕掛けも面白い。
- ・ 地方に知らしめることも必要であるため、レセプションを行ったり、収蔵物の貸出を積極的に行えばよい。また、ワールドカップ開催スタジアムとのタイアップも手がかりになる。
- ・ 『JFA ニュース』やネットなどの媒体をもっと有効活用すべきである。
- ・ 支援企業はどのような状況か? 支援企業のメリットが少ないように思えるが、今後は、支援企業に対する細やかな情報提供などを十分に行う必要があるのではないか。

オープン当初より7社減っているのが現状である。電通経由で、契約更新、新規開拓を行っている。

これらを踏まえ、遠藤委員より、ただ見てまわるよりは、説明を聞きながら見学した方が何倍も楽しめるし、充実したものとなることから、まずはボランティアの活用をぜひとも実現していただきたいとの意見があった。

また岡野館長より、以前より提案している選手とサポーターとの交流という国内的なイベントに加え、サッカーの国際性を活かした盛り上げ(例えば、ワールドカップドイツ大会時のドイツ大使館のイベントなどを参考)を、在日外交官や各国大使館・機関と連携し

て定期的に行ってはどうかとの提案があった。

続いて、事務局より、日本サッカーミュージアムの会員制度を日本サッカー後援会のような形でサッカーファミリーの一部に組み入れていくことを前提に、資料 2 に基づき、サッカーファミリー登録者数及び日本サッカー後援会の現状についての説明を行った。

ミュージアムの会員制度を構築していくに当たり、次のような意見をいただいた。

- ・ ミュージアムとして何ができるのかを考え、サポーターを対象とした後援会とのアイデンティティの差別化をはかり、ミュージアムに特化した組織を作る必要がある。
- ・ 代表の動きに左右される組織では継続性はのぞめない。ミュージアムとしての理念を持ち、「代表」に頼らない仕組みを作り、ミュージアムの価値や意義に賛同できる人たちを集めることが必要。
- ・ 近い将来の資金繰りを念頭に置き、JFA だけに頼らない賛助会員制度とすべき。
- ・ しかしながら、「ミュージアム」だけではメリットが少なく、賛助を求めることは難しい。はっきりとした「特典」、収益につなげるための「共感できるもの」が必要である。

後援会には、代表戦のチケットの優先有料購入や、有料試合への無料入場などの特典がある。本来は、代表の強化費を捻出するために設けられた組織であったが、現在では代表戦のチケットのために入会するケースが多い。

- ・ まずは興味を持ってもらうことが重要であるため、その導入として「代表」をアピールしても良いのではないか。
- ・ 特典がなければ入会してもらえないというのも寂しいことであるが、導入としての特典は必要である。浦和レッズのような形態をミュージアム(=歴史・文化)に求めるのは難しい。
- ・ 会員への付加価値として、会員しか参加できないイベント、バッジの配布、会員を示すブレザーなどが考えられる。ビジネスにつながればなお良い。
- ・ OB を役員に据えて事業に参加してもらうなど、人的資源を活かせる組織にしたい。
- ・ 人的・物的資源を資産化していくためには、付加価値を高める必要がある。そのためには、事物の物語性と鮮度が必要。
- ・ OB、人的資源という意味においては後援会や日本代表 OB 会と一緒に事業を展開することは可能であるし、OB も協力しやすい。

また、遠藤委員より、約 5 億円残っている記念事業補助金を、当面の運営費にまわすだけでなく、新しい機軸のために有効に使ってもらいたいとの意見があった。

2002FIFA ワールドカップの収益を社会の皆様に還元したいという気持ちは強いが、近々ヴァーチャルスタジアムの有料化も視野に入れながら、増収に向けて対応していきたい。また、映像モニターなどの機器類の経年劣化に伴う修繕費用、新規購入費用は十分に確保したいとの事務局からの意見を補足した。

以上の意見交換を踏まえ、会員制度に関する案を事務局にて作成し、次回以降の委員会で検討することとした。

財団法人 日本サッカー協会  
ミュージアム部長 小野沢洋